

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 9 日現在

機関番号：33941

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K10452

研究課題名（和文）母乳育児継続支援を目指した母乳育児中の母親のcomfort測定尺度の開発

研究課題名（英文）Development of comfort measurement scale for breastfeeding mothers to support breastfeeding continuation

研究代表者

千葉 朝子 (Chiba, Asako)

日本赤十字豊田看護大学・看護学部・講師

研究者番号：50572624

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,700,000円

研究成果の概要（和文）：3～6か月の母乳育児をする母親553名に無記名式質問紙調査をWeb調査にて実施した。項目分析の結果、34項目について探索的因子分析を実施し、【母乳での授乳中の幸福感】【サポート環境の安心感】【母乳の量と授乳方法の満足感】【安楽な母乳での授乳姿勢】の26項目4因子構造の母親が母乳育児に感じる心地よさ尺度を作製した。尺度全体のCronbachの α は.905であった。既知グループ法による構成概念妥当性の検証の結果、完全母乳栄養群の得点が、混合栄養群やほぼ人工栄養群よりも高く、栄養方法別の差異を示した。産褥早期に早産、多胎などの母乳育児困難な要因がある場合はない場合に比べ有意に得点が低かった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

産科施設退院後は母親は自己管理で母乳を行っていることが多く、栄養方法も完全母乳から人工栄養が多い方法まで多岐にわたる。また、母乳育児を取り巻く環境や母乳育児に伴う困難から母乳育児を心地よく思えない場合も多くある。母親の心身の苦痛を緩和し、心地よさを感じられるよう支援することで母乳の継続に貢献できると考えた。

今回開発した尺度は、母親が母乳育児に感じる心地よさを「授乳中の満足」「サポートの安心感」「授乳量と方法の満足」「安楽な授乳姿勢」と総合的に評価している。母親が母乳育児に感じる心地よさ尺度を使用することで、母親に適切なケアの提供ができると考える。また、産褥早期からの支援も可能と考える。

研究成果の概要（英文）：A web-based anonymous survey was conducted with 553 mothers who breastfeed infants aged 3 to 6 months. We performed an item analysis and an exploratory factor analysis of 34 items, and developed a scale for comfort of breastfeeding perceived by the mothers with 26 items in the following four factors: Feelings of happiness while breastfeeding, Sense of ease in the supportive environment, Satisfaction with the amount of breast milk and feeding method, and Breastfeeding posture with comfortable breastfeeding. Cronbach's α coefficient for the total scale was .905. We examined the construct validity using the known group method. There were differences by nutritional method: the scores of the complete breastfeeding group were higher than those of the mixed nutrition and the mostly artificial nutrition groups. The scores of mothers with breastfeeding difficulty factors were significantly lower than those without such factors.

研究分野：母性看護学

キーワード：母乳育児 心地よさ 母親 尺度

1. 研究開始当初の背景

母親にとって母乳で授乳することは 1 日に数回から十数回行われる日常生活の中の営みであり、日々繰り返される母乳育児で、心地よさを感じることは育児の負担や疲労から回復する力を与え(千葉, 村瀬, 2023)母乳育児を継続する原動力となる。一方で、母乳育児をする母親が良い母親であるという社会規範や核家族化の中の孤立した育児などの母乳育児を取り巻く環境、乳頭・乳房トラブルや授乳量など母乳育児に伴う困難や不安から、母親が母乳育児を心地よく感じられない場合があることが指摘されている(濱田, 佐々木, 住谷他, 2018)。また、少量でも母乳を飲ませていれば母乳育児と定義され、母乳のみでの授乳から母乳より人工栄養が多くなる授乳方法まで多岐にわたる(清水, 2011)。母親の心身の苦痛を緩和し、心地よさを感じられるように母乳育児を支援することで母乳育児の継続をもたすことが期待される。しかし、分娩施設を退院した後、母親は自己管理で母乳育児を行っていることが多く(堺, 2022)、母乳育児の状況の把握が困難となっている。我が国において、母乳育児をする母親の状態を測定するために多数の尺度がこれまでに開発されているが、これらの尺度はいずれも母乳育児の心地よさに関連した項目を含んでいるものの、測定しているのは母乳育児の心地よさの一部の側面のみであり、母親が母乳育児に感じる心地よさを総合的に評価しているものは見当たらない。母親が母乳育児に感じる心地よさを主観的に評価することが可能になれば、母親の授乳及び母乳育児の受け入れ状態をより直接的に把握でき、母乳育児に感じる心地よさを高めるケアの提供が期待される。

2. 研究の目的

本研究の目的は、母親が母乳育児に感じる心地よさの測定用具を開発することである。

3. 研究の方法

(1) 尺度原案の作成

質問項目の原案は、母乳育児を行っている母親で産褥早期から産後 3 か月までにある母親に縦断的に、6 か月以上継続をしている母親に横断的に面接調査を行った調査結果(千葉, 村瀬, 2023)に基づいて原案 58 項目を作成した。その後、産褥早期から卒乳または断乳までの時期の母乳育児をする母親のケアにかかわった経験が 5 年以上ある助産師 7 人および母性看護の研究者 1 人の計 8 人に依頼し、母乳の心地よさ尺度の原案 58 項目の内容妥当性の検討を行った。評価の結果、I-CVI が 0.5 以下であった 1 項目を削除し、削除後の 57 項目の S-CVI/Ave. が 0.90 であったため、尺度原案は 57 項目とした。

(2) 尺度の信頼性・妥当性の検証

研究対象者

産後 3 か月から 6 か月まで母乳育児を継続している母親約 550 名を対象とした。さらに選定基準として、児の授乳方法が完全母乳または混合栄養である母親、日本語の読み書きができる、インターネット調査に協力できるとした。

調査方法

マクロミル株式会社が提供するインターネットリサーチサービスを利用し Web 調査を実施した。

(3) 調査項目、分析方法

尺度原案の作成

57 項目の母乳の心地よさ尺度原案の回答形式は、「そう思う(5点)」から「まったくそう思わない(1点)」の 5 件法とした。得点が高いほど、心地よさを感じている配点とした。

研究対象者の属性

年齢、初産婦・経産婦の別、分娩様式、分娩時期、単胎・多胎の別、入院中の母児同室の有無、退院ごろの授乳方法、産後 1 か月ごろの授乳方法、現在の授乳方法、退院後の乳頭・乳房トラブルの有無、母乳相談の有無、母乳相談できるところ、経産婦の場合は上の子どもの授乳方法と母乳の期間についても尋ねた。

(4) 分析方法

項目分析

平均値・標準偏差による天井効果・床効果を確認した。Good-Poor analysis(以下、GP 分析)、項目間相関分析、Item-Total Correlation(以下、I-T 相関)を行った。

信頼性の検証

尺度の信頼性は、内的整合性の Cronbach の 信頼係数を算出した。

妥当性の検証

項目分析により抽出された項目を用いて質問項目の構造を明らかにするために、探索的因子分析を行った。既知グループ法を用いて構成概念妥当性の検証を行った。既知グループ法の仮説を「完全母乳栄養群は完全母乳栄養による栄養法以外の群よりも得点高い」とした。完全母乳栄養群、混合栄養群、ほぼ人工栄養群間の母乳の心地よさ尺度得点の違いを比較した。また、属性

による尺度得点の差を比較した。さらに、確認的因子分析として共分散構造分析を用いた因子分析を実施しモデルの適合度を算出した。適合度合は、GFI (Goodness of Fit Index), AGFI (Adjusted Goodness of Fit Index), CFI (Comparative Fit Index), RMSEA (Root Mean Square Error of Approximation), AIC (Akaike's Information Criterion)で評価した。

統計解析には、IBM SPSS Statistics および Amos 25.0 を用いた。有意水準は5%とした。

(4) 倫理的配慮

所属機関の研究倫理審査委員会の承認(承認番号:3014, 2128, 2201)を受けた。Web調査の実施に際しては、研究の目的・方法、研究参加の自由意志、匿名性の保持、データ管理、研究結果の公表研究の同意は調査への回答を持って同意とすること、回答配信後の取り消しはできないことについての説明文書を提示し、同意を示すボタンをクリックすることで本研究の調査の調査用紙が表示されるようにし、研究同意の確認を得た後実施した。Web調査のマクロミル株式会社とは、機密保持契約を結んだ。

4. 研究成果

(1) 対象者の属性(表1)

553人から回答があり、すべてが有効回答であった。対象者の内訳は、初産婦が247人(44.7%)、経産婦が306人(55.3%)であった。産後月数は、産後3か月が147人(25.7%)、産後4か月が127人(23.0%)、産後5か月が125人(28.8%)、産後6か月が159人(22.2%)であった。現在の授乳方法は、完全母乳栄養が241人(44.6%)、混合栄養が207人(37.4%)、ほぼ人工栄養が105人(19.0%)であった。

表1 対象者の属性

		全体(n=553)				完全母乳栄養 (n=241, 43.6%)		混合栄養 (n=207, 37.4%)		ほぼ人工栄養 (n=105, 19.0%)	
		n	%	平均	標準偏差	n	%	n	%	n	%
年齢	20~29才	177	32	32.37	5.33	77	43.5	66	37.3	34	19.2
	30~39才	331	59.9			151	45.6	117	35.3	63	19.0
	40~49才	38	6.9			13	34.2	19	50.0	6	15.8
	50才以上	7	1.3			0	0.0	5	71.4	2	28.6
婚姻の有無	未婚	20	3.6								
	既婚	533	96.4								
初産の別	初産婦	247	44.7			91	36.8	88	35.6	68	27.5
	経産婦	306	55.3			150	49.0	119	38.9	37	12.1
	分産様式	経産分産	457	82.6			204	44.6	171	37.4	82
	帝王切開	96	17.4			37	38.5	36	37.5	23	24.0
出生時体重				3002.71	431.19						
産後月数	3か月	142	25.7			62	43.7	55	38.7	25	17.6
	4か月	127	23.0			65	51.2	39	30.7	23	18.1
	5か月	125	22.6			58	46.4	48	38.4	19	15.2
	6か月	159	28.8			56	35.2	65	40.9	38	23.9
分娩時期	早産	22	4.0			2	9.1	15	68.2	5	22.7
	後期早産	58	10.5			17	29.3	29	50.0	12	20.7
	正期産・過期産	473	85.5			222	46.9	163	34.5	88	18.6
単胎・多胎の別	単胎	540	97.6			241	44.6	196	36.3	103	19.1
	双胎	10	1.8			0	0.0	8	80.0	2	20.0
	三胎	2	0.4			0	0.0	2	100.0	0	0.0
	四胎	1	0.2			0	0.0	1	100.0	0	0.0
入院中の母乳回室	あり	453	81.9			210	46.4	165	36.4	78	17.2
	なし	100	18.1			31	31.0	42	42.0	27	27.0
退院後の乳頭・乳房	あり	241	43.6			103	42.7	99	41.1	39	16.2
	なし	312	56.4			138	44.2	108	34.6	66	21.2
トラブルの有無	なし	100	18.1			31	31.0	42	42.0	27	27.0
	トラブルの内容	乳頭損傷	137	56.8							
		乳腺炎	83	34.4							
		母乳分泌不足	67	27.8							
		母乳分泌過多	47	19.5							
		児の吸着不良	63	26.1							
		その他	15	6.2							
退院後の母乳相談の有無		あり	225	40.7			201	44.0	172	37.6	84
なし	328	59.3			40	41.7	35	36.5	21	21.9	
経産婦のみ											
前回の授乳方法	母乳のみ	173	56.5								
	混合	118	38.6								
	人工	15	4.9								
母乳期間	6か月未満	56	19.3								
	6か月以上	235	80.7								

(2) 項目分析

天井効果があったものは28項目、床効果があった項目は1項目であった。天井効果・床効果を示した項目は、いずれも母親が母乳育児に感じている心地よさという概念を測定する上で不可欠な項目であると考え、天井効果、床効果がみられた項目の削除は行なわなかった。GP分析、項目間相関分析、I-T分析の項目分析により、21項目を削除した。

(3) 探索的因子分析

項目分析により21項目を除いた34項目について、主因子法、プロマックス回転により因子分析を行った。KMOは.910を示し、Bartlettの球面検定は有意な差($\chi^2 = 8096.7, df = 561, p < .001$)を認めた。因子負荷量.40以上の項目を採択の基準とした。

(4) 信頼性の検証

第1因子はCronbachの $\alpha = .879$ 、第2因子は $\alpha = .783$ であった。第3因子では項目26と27

を削除した場合に 係数が上昇したため、これらを削除項目とした。削除後は $r = .807$ であった。第 4 因子では項目 16 と 36 を削除した場合に 係数が上昇したため、これらを削除項目とした。削除後は $r = .792$ であった。4 項目削除後の尺度全体の Cronbach の 係数は .905 であった。(表 2)。

(5) 尺度の命名と尺度得点および尺度間の相関

第 1 因子は 11 項目から構成され、「おっぱいを飲む赤ちゃんに癒やされる」など母乳での授乳中に母親が感じる満足感や幸福感を表した内容であったことから【母乳での授乳中の幸福感】と命名した。第 2 因子は 7 項目から構成され、「授乳について悩みを分かち合える人がいる」などサポートを表す内容であったことから【サポート環境の安心感】と命名した。第 3 因子は 5 項目から構成され、「今の授乳方法に満足している」など現在の授乳方法と母乳の分泌量に自分なりに満足を感じている内容を表していることから【母乳の量と授乳方法の満足感】と命名した。第 4 因子は 3 項目から構成され、「おっぱいでの授乳は、身体に力が入らずリラックスできる」など授乳時のポジショニングの安楽を表す内容であったことから【安楽な母乳での授乳姿勢】と命名した。尺度全体の得点は 104.02 ± 14.59 (平均 \pm 標準偏差)、中央値は 105.00、第 1 因子【母乳での授乳中の幸福感】の得点は 46.71 ± 6.78 、中央値は 48.00、第 2 因子【サポート環境の安心感】の得点は 25.70 ± 5.37 、中央値は 26.00、第 3 因子【母乳の量と授乳方法の満足感】の得点は 20.91 ± 3.77 、中央値は 22.00、第 4 因子【安楽な母乳での授乳姿勢】の得点は 10.70 ± 2.90 、中央値 11.00 であった。尺度全体と各因子間の Spearman の順位相関係数は $r = .659 \sim .857$ ($p < .001$)、各因子間 $r = .356 \sim .658$ ($p < .001$) といずれも有意な正の相関を示した。

表 2 探索的因子分析結果

尺度全体 $\alpha = .905$	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子
第1因子 母乳での授乳中の幸福感 ($\alpha = .879$)				
5 おっぱいを飲む赤ちゃんに癒やされる	.741	-.087	-.015	-.025
34 おっぱいをあげることで赤ちゃんとの特別な絆ができる	.729	.047	-.032	.034
38 おっぱいは、赤ちゃんに自分の身体で作った免疫や栄養をあげられる	.728	.076	.032	-.183
36 おっぱいは母親にしかできない	.715	-.075	.145	-.208
29 おっぱいの時間は幸せな時間である	.655	-.032	-.120	.234
2 おっぱい中は赤ちゃんとのスキンシップがとれる	.602	-.010	-.071	.005
7 おっぱいをあげているときは、気持ちが満たされる	.549	-.002	-.290	.387
40 自分のできる範囲でおっぱいを続ける満足がある	.527	.115	.173	.039
4 おっぱいは泣いている赤ちゃんをなだめられる	.503	.034	.190	-.122
37 おっぱいを続けることで母親としての自信がつく	.490	.116	-.124	.137
42 ここまで頑張ってきたおっぱいをできるだけ長く続けていきたい	.452	.079	.172	.001
22 おっぱいは荷物が少なくてすむ	.345	-.001	.311	.017
第2因子 サポート環境の安心感 ($\alpha = .783$)				
52 授乳中の自分を気遣ってくれる人がいる	.041	.740	-.028	-.132
51 授乳について悩みを分かち合える人がいる	-.197	.658	-.010	.077
49 授乳に支障がないように家族が家事や育児を手伝ってくれる	-.035	.614	.069	-.088
44 入院中、助産師や看護師が自分に合う授乳方法について一緒に考えてくれた	.112	.600	-.100	-.130
46 入院中の助産師や看護師の授乳の支援は数ヶ月たった今でも支えになっている	.081	.593	-.143	.002
47 退院後に授乳について相談できるところがある	.048	.522	.032	-.068
55 おっぱいの間はプライバシーが守られる	.109	.446	-.085	.135
54 落ち着いた気持ちでおっぱいがあげられる環境である	.279	.339	.104	.089
第3因子 母乳の量と授乳方法の満足感 ($\alpha = .807$)				
27 母乳の量が足りずに赤ちゃんに申し訳ない*	-.187	-.153	.847	-.118
11 母乳の分泌量は母乳を続けていける量である	-.057	.071	.583	.232
20 赤ちゃんが欲しがったときにすぐにおっぱいをあげられる	.103	.137	.578	.058
41 今の授乳の方法に満足している	.073	.143	.487	.156
26 おっぱいを飲ませるのに必死で赤ちゃんのことまで気が回らない*	.260	-.228	.446	-.250
10 おっぱいは、飲ませる量にとらわれず赤ちゃんが飲みたいだけ飲ませられる	.163	.078	.434	.053
15 赤ちゃんは直接授乳でおっぱいを飲んでくれる	.311	-.127	.424	.136
第4因子 安楽な母乳での授乳姿勢 ($\alpha = .792$)				
18 おっぱいでの授乳中は疲れを感じない	-.113	-.027	-.167	.890
17 おっぱいでの授乳は、身体に力が入らずリラックスできる	.073	-.204	.005	.830
19 おっぱいでの授乳の時は、自分なりに楽な授乳姿勢の工夫ができる	.031	.007	.153	.582
30 授乳は短時間で済み、家事や育児に支障がない	-.175	.219	.097	.435
16 直接授乳の時に乳頭は痛くない	.095	-.164	.234	.422
21 いつでもどこでも赤ちゃんにおっぱいをあげられる	-.161	.205	.339	.370
14 赤ちゃんが深くしっかり乳頭に吸い付いてくれる	.104	-.069	.319	.328
因子相関行列	1	2	3	4
		.487	.556	.532
		.487	.303	.547
		.556	.303	.444
		.532	.547	.444
			.444	.1

因子抽出方法: 主因子法

回転法: Kaiser の正規化を伴うプロマックス回転

因子負荷量: 40以上であるが、項目削除したほうが Cronbach's α 係数が上昇するため、削除した項目

* 逆転項目

(6) 構成概念妥当性の検証 (表 3, 表 4)

構成概念妥当性の検証として、既知グループ間の尺度得点の比較および確認的因子分析を行った。既知グループ間の尺度得点の比較は、属性および栄養方法別の比較を行った。

表3 属性による尺度得点の違い

属性	n	尺度全体				第1因子				第2因子				第3因子				第4因子				
		平均値	標準偏差	中央値	p値	平均値	標準偏差	中央値	p値	平均値	標準偏差	中央値	p値	平均値	標準偏差	中央値	p値	平均値	標準偏差	中央値	p値	
初産婦と経産婦の別 ^a	初産婦	247	103.9	14.437	105	47.06	6.565	48		26.03	5.33	26	20.45	3.882	21		10.36	2.95	10			
	経産婦	306	104.11	14.734	105.5	.764	46.44	6.944	48	.376	25.43	5.4	26	23.7	21.27	3.641	22	.008	10.97	2.831	11	.014
早産の有無 ^b	早産	22	103.95	17.705	104	44.86	7.76	45		28.09	5.209	27	20.14	4.291	21.5		10.86	3.121	12			
	後期早産	58	97.31	19.537	95	.012	42.69	9.323	44.5	<.001	24.93	5.84	24	.065	19.17	4.585	20	.009	10.52	2.83	11	.716
	正期産・過期産	473	104.84	13.516	106		47.29	6.17	48		25.68	5.3	26		21.15	3.577	22		10.71	2.901	11	
多胎の有無 ^a	単胎	540	104.33	14.355	105		46.89	6.655	48		25.75	5.333	26		20.97	3.744	22		10.73	2.898	11	
	多胎	13	91.15	18.765	83	.008	39.54	8.181	37	<.001	23.85	6.805	23	.210	18.38	4.073	19	.023	9.38	2.663	9	.098
入院中の母児同室 ^a	あり	453	105.07	14.415	106		47.08	6.61	49		26.01	5.344	26		21.13	3.697	22		10.85	2.889	11	
	なし	100	99.24	14.488	99.5	<.001	45.04	7.296	46	.006	24.3	5.3	25	.005	19.89	3.941	21	<.001	10.01	2.852	10	.011
退院頃の授乳方法 ^a	直接授乳のみ	123	107.08	13.504	109		47.54	6.178	49		25.98	5.461	26		22.35	3.075	23		11.41	2.854	12	
	直接授乳を含む方法	430	103.14	14.784	105	.013	46.48	6.929	48	.18	25.62	5.35	26	.711	20.55	3.876	21	<.001	10.49	2.88	11	<.001
1か月頃の授乳方法 ^a	直接授乳のみ	185	107.83	12.617	109		48.14	5.762	49		25.83	5.516	26		22.38	2.69	23		11.48	2.711	12	
	直接授乳を含む方法	368	102.1	15.143	103	<.001	46	7.135	47	<.001	25.64	5.305	26	.678	20.17	4.012	21	<.001	10.3	2.912	10	<.001
退院後トラブルの有無 ^a	なし	312	104.41	14.538	105		46.86	6.728	48		25.73	5.386	26		20.97	3.762	22		10.85	2.836	11	
	あり	241	103.51	14.671	105	.399	46.52	6.851	48	.56	25.66	5.364	25	.748	20.83	3.784	22	.589	10.49	2.969	11	.203
退院後母乳相談の有無 ^a	なし	328	104.39	13.976	105		46.97	6.5	48		25.39	5.119	25		21.16	3.679	22		10.86	2.898	11	
	あり	225	103.48	15.456	105	.685	46.34	7.162	48	.43	26.15	5.703	26	.104	20.53	3.873	21	.040	10.46	2.888	11	.106
母乳相談できるところの有無 ^a	なし	96	100.33	13.103	102.5		45.86	6.438	47		23.29	4.806	23		20.56	3.696	21		10.61	2.848	11	
	あり	457	104.79	14.78	106	.005	46.89	6.841	48	.06	26.21	5.352	26	<.001	20.98	3.784	22	.202	10.71	2.911	11	.746
経産婦のみ 前回の授乳法 ^b	完全母乳	173	107.14	13.435	109		47.52	6.492	49		25.81	5.317	26		22.35	2.984	23		11.46	2.562	12	
	混合栄養	118	99.76	15.671	99.5	<.001	44.76	7.416	46	<.001	24.97	5.455	24	<.001	19.78	4.007	21	<.001	10.25	3.067	10	.005
	人工栄養のみ	15	103.4	13.658	99		47.13	5.854	48		24.8	5.931	25		20.53	3.378	21		10.93	2.84	11	

p<.05
a.Mann-WhitneyのU検定
b.Kruskal-Wallis検定

表4 栄養方法別尺度得点

	n	尺度全体				第1因子				第2因子				第3因子				第4因子				
		平均値	標準偏差	中央値	p値 ^a	平均値	標準偏差	中央値	p値 ^a	平均値	標準偏差	中央値	p値 ^a	平均値	標準偏差	中央値	p値 ^a	平均値	標準偏差	中央値	p値 ^a	
全体	完全母乳栄養群	241	108.70	12.41	109		48.67	5.67	50		26.02	5.41	27		22.75	2.34	23		11.27	2.72	12	
	混合栄養群	207	102.52	14.74	105	<.001	45.48	7.35	47	<.001	25.83	5.22	26	.074	20.56	3.44	21	<.001	10.65	2.77	11	<.001
	ほぼ人工栄養群	105	96.24	15.09	96		44.67	6.83	45		24.73	5.51	25		17.36	4.30	18		9.48	3.17	9	
産後3か月	完全母乳栄養群	62	106.97	13.127	107		47.61	6.128	48.5		25.84	5.493	26		22.4	2.343	23		11.11	2.753	11.5	
	混合栄養群	55	100.82	16.339	105	.017	44.76	8.327	47	.253	26.09	5.69	26	.189	20.56	3.44	21	<.001	9.96	2.994	10	.063
	ほぼ人工栄養群	25	97.96	15.736	98		46.8	6.371	48		24.24	4.781	23		17.44	4.398	19		9.48	3.743	10	
産後4か月	完全母乳栄養群	65	109.83	12.186	112		48.74	5.509	50		26.91	5.456	28		22.92	2.064	24		11.26	2.432	11	
	混合栄養群	39	101.82	15.422	105	.001	45.13	7.76	46	.016	25.26	5.087	25	.068	20.49	3.619	21	<.001	10.95	2.762	11	.720
	ほぼ人工栄養群	23	98.83	14.779	97		45.22	6.571	44		24.52	5.599	24		18.3	4.279	19		10.78	2.828	11	
産後5か月	完全母乳栄養群	58	109.02	13.162	109		48.83	6.067	50.5		26.41	5.089	26.5		22.47	2.709	23		11.31	2.761	12	
	混合栄養群	48	104.75	13.127	105.5	.001	47.44	6.401	49	.018	25.27	5.457	25	.277	21.13	2.679	21	<.001	10.92	2.583	11	.002
	ほぼ人工栄養群	19	93.21	15.69	92		43.21	9.289	46		24.42	5.409	23		17	4.534	17		8.58	2.61	9	
産後6か月	完全母乳栄養群	56	108.96	11.103	109		49.59	4.797	51		26.77	5.481	25		23.21	2.197	24		11.39	3.013	12	
	混合栄養群	65	102.72	14.132	104	<.001	44.85	6.753	46	<.001	24.75	5.475	25	.271	20.66	3.492	22	<.001	10.86	2.663	11	.001
	ほぼ人工栄養群	38	95.05	14.759	94		43.66	5.625	44		25.34	6.086	25		16.92	4.207	17		9.13	3.086	9	

a.Kruskal-Wallis検定 p<.05
n.s.=not significant

属性項目では、尺度全体で早産の有無(p=.012)、多胎の有無(p=.008)、入院中の母児同室の有無(p<.001)、退院頃の授乳方法(p=.013)と1か月頃の授乳方法(p<.001)、母乳相談できるところの有無(p=.005)、経産婦の場合は前回の授乳方法(p<.001)の得点において有意な差がみられた。栄養方法別では、尺度全体および各因子とも完全母乳群、混合栄養群、ほぼ人工栄養群の順に得点が高かった

確認的因子分析を26項目4因子構造となった母親が感じる母乳育児の心地よさ尺度に対して実施したところ、モデル適合度は $\chi^2=1248.634$, $df=293$, $p<.001$, $GFI=.840$, $AGFI=.809$, $CFI=.831$, $RMSEA=.077$, $AIC=1364.634$ であった。

尺度全体と4つの下位尺度の係数はすべて.70以上の範囲にあったことから信頼性は確保されたと考える。また、第1因子から第4因子の因子間に有意な相関が見られたことは4つの因子が全体として母乳育児の心地よさとしてまとまりを示していると考えられる。既知グループ法による構成概念妥当性の検証では、栄養法別、産後月数別、属性別で尺度全体および第1~第4因子において完全母乳栄養群の得点が最も高く、栄養法別の差異を示した。

引用文献

千葉朝子, 村瀬智子(2023). 6か月以上母乳育児を継続した母親が感じた母乳育児の心地よさ, 日本赤十字看護学会誌, 24(1), 33-42.

濱田真由美, 佐々木美喜, 住谷ゆかり, 鈴木健太, 仁昌寺貴子(2018). 授乳を行う母親の体験質的研究のメタ・サマリー, 日本看護研究学会雑誌, 41(5), 875-889, doi:10.15065/jjsnr.20180504023.

堺 武男(2022). これから母乳育児を始める医療者への提言, 日本母乳哺育学会雑誌, 16(1), 45-52.

清水俊明(2011). 母乳育児の定義, 日本小児科学会雑誌, 115(8), 1364-1367.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 千葉 朝子、村瀬 智子	4. 巻 24
2. 論文標題 6か月以上母乳育児を継続した母親が感じた母乳育児の心地よさ	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本赤十字看護学会誌	6. 最初と最後の頁 33～42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24754/jjrcsns.24.1_33	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 千葉朝子、村瀬智子
2. 発表標題 母親が母乳育児に感じる心地よさ
3. 学会等名 第42回日本看護科学学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 千葉朝子、村瀬智子、森田一三
2. 発表標題 母親が母乳育児に感じる心地よさの尺度の開発
3. 学会等名 第24回日本赤十字看護学会学術集会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	村瀬 智子 (MURASE Tomoko)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	森田 一三 (MORITA Ichizo)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関